

子どもを
事故から
守る!

事故防止 ハンドブック



消費者ホットライン188
イメージキャラクター
イヤヤン

このハンドブックは、0歳から6歳（小学校に入学前の未就学児）の子どもに、予期せず起こりやすい事故とその予防法、もしもの時の対処法のポイントをまとめたものです。

子どもの周囲の大人たちが、安全な製品の選択、正しい利用により、子どもの身の回りの環境を整備して、対策を立てることで、防げる事故があります。明るく楽しい子育てと、毎日の生活のために、子どもを事故から守る正しい知識を身に付ける一助となれば幸いです。









消費者庁

Consumer Affairs Agency, Government of Japan

子どもの発達と起こりやすい事故

子どもは運動機能の発達とともに、いろいろなことができるようになります。その一方で、様々な事故に遭うおそれが出てきます。起こりやすい主な事故が、発生しやすい時期の目安を矢印で記載しました。





発達 目安	誕生	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月
		首がすわる 足をバタバタさせる		離乳食を始める	寝返りをうつ	一人座り	ハイハイをする	指で
主な 起こり やすい 事故	窒息・誤飲事故	<就寝時の窒息事故> ・うつぶせで寝て、顔が柔らかい寝具に埋もれる ・掛布団、ベッド上の衣類、ぬいぐるみ、スタイなどで窒息		・ベッドと壁の隙間などに挟まれる ・家族の身体の一部で圧迫される ・ミルクの吐き戻しによる窒息		・食事中に食べ物で窒息 ・おもちゃなどの小さなもので ・ボタン電池、吸水ボール、磁石などの誤飲 ・医薬品、洗剤、化粧品などの誤飲 ・たばこ、お酒などの ・ブラインドやカーテンのひもなどによる窒息		
	水まわりの事故	・入浴時に溺れる				 ・浴槽へ転落し溺 ・洗濯機、バケツや		
	やけど			・お茶、みそ汁、カップ麺などでのやけど ・暖房器具や加湿器でのやけど		・電気ケトル、ポット		
	転落・転倒事故	・大人用ベッドやソファからの転落 ・抱っこひも使用時の転落 ・ベビーカーからの転落		・ベビーベッドやおむつ替えの台からの転落		・椅子やテーブルからの転落 ・階段からの転落		
	車・自転車関連の事故	・チャイルドシート未使用による事故 ・車内での熱中症				・車のドアやパワーウインドウに挟まれる事故 ・子ども乗せ自転車での転倒 ・自転車に乗せた子どもの足が後輪に巻き込		
挟む・切る・その他の事故	・エスカレーター、エレベーターでの事故				・テーブルなどの			
								

4ページ以降は、各事故について、事故が発生しやすい年齢を右記のマークで記載しています。

0歳~3歳くらい



4ページ以降に起こりやすい事故の注意ポイントを紹介していますので、ご覧いただき事故の予防につなげていきましょう。

10か月	11か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	
つかまり立ち 物をつかむ		一人歩き 走る	階段を登り降りする その場でジャンプ 高い所へ登れる					
		4ページ						
窒息						5ページ	5ページ	
誤飲		・包装フィルム・シールなどの誤飲				5ページ		
息						6ページ	4ページ	
れる		6ページ						
洗面器などによる事故						6ページ		
		・ビニールプールやプールなどでの事故				6ページ		
		・海や川での事故・ため池、用水路、排水溝、浄化槽での事故				6ページ		
、炊飯器でのやけど・調理器具やアイロンでのやけど		7ページ						
		7ページ						
		・ライター、花火によるやけど				7ページ		
		8ページ						
		9ページ						
		9ページ						
、段差での転倒		8ページ				8ページ		
		8ページ						
		・ベランダなどからの転落				8ページ		
		・窓や出窓からの転落				8ページ		
		・ショッピングカートからの転落				9ページ		
		・遊具(すべり台、ジャングルジム、ブランコなど)からの転落				9ページ		
		・ペダルなし二輪遊具、キックスクーター等での転倒				9ページ		
						10ページ		
						10ページ		
						10ページ		
まれる、スポーク外傷						10ページ		
		・道路上などでの事故				11ページ		
						13ページ		
家具で打撲		12ページ						
		・カミソリ、カッター、はさみなどの刃物やおもちゃでのけが				12ページ		
		・小さなものを鼻や耳に入れる				12ページ		
		・キッチン付近で包丁、ナイフでのけが				12ページ		
		・ドアや窓で手や指を挟む				12ページ		
		・タンスなどの家具を倒して下敷きになる				12ページ		
		・ドラム式洗濯機での事故				12ページ		
		・歯磨き中に歯ブラシでの喉突きなどの事故				13ページ		
		・機械式立体駐車場での挟まれ事故				13ページ		

窒息・誤飲事故

就寝時の窒息事故

0歳～1歳くらい

できるだけベビーベッドを利用することで、多くの事故を避けることができます。

うつぶせで寝て、顔が柔らかい寝具に埋もれる

[注意ポイント]

1. 大人用ベッドではなく、できるだけベビーベッドに寝かせ、敷布団やマットレス等の寝具は硬めのものを使用しましょう。
2. 1歳になるまでは、寝かせる時は、あお向けに寝かせましょう。



掛布団、ベッド上の衣類、ぬいぐるみ、スタイ(よだれかけ)で窒息

[注意ポイント]

1. 掛布団は、子どもが払いのけられる軽いものを使用し、顔にかぶらないようにしましょう。
2. 寝ている子どもの顔の近くに、口や鼻を覆ったり、首に巻き付いたりする物は置かないようにしましょう。



ベッドと壁の隙間などに挟まれる

[注意ポイント]

1. 寝ている間に動き回り、大人用ベッドと壁や後付け柵の隙間などに頭や顔が挟まるなどしないよう、できるだけベビーベッドに寝かせましょう。
2. 大人用ベッドに取り付ける幼児用ベッドガードは、生後18か月未満の乳幼児には絶対に使用しないでください。



家族の身体の一部で圧迫される

[注意ポイント]

- 寝かすつきの時に、添い寝をして意図せず寝込んでしまう、また同じ寝具で就寝している際に大人の身体の一部で圧迫してしまわないように、できるだけベビーベッドに寝かせましょう。



ミルクの吐き戻しによる窒息

[注意ポイント]

- 授乳した後は、げっぷをさせてから寝かせるようにしましょう。

ブラインドやカーテンのひもなどによる窒息

0歳～6歳くらい

[注意ポイント]

1. ひもが首に絡まらないよう、子どもの手が届かない所にまとめましょう。
2. ソファなど、踏み台になる物をひもの近くに設置しないようにしましょう。
3. ひも部分がないなどの安全性の高い商品を選びましょう。



トピックス

乳幼児突然死症候群(SIDS)について

SIDS:Sudden Infant Death Syndromeとは、それまで元気だった赤ちゃんが、睡眠中に突然死亡してしまう病気で、窒息などの事故とは異なります。原因が分からない病気で、予防方法は確立していませんが、厚生労働省によると、以下の3点に気を付けることで発症リスクの低減が期待されています。

- ① 1歳になるまでは、寝かせる時はあお向けに寝かせましょう。
- ② できるだけ母乳で育てましょう。
- ③ たばこをやめましょう。

飲んだものによって、緊急性の高いものや吐かせてはいけないものがあります。
16ページに「誤飲対処早見表」を掲載していますので、応急手当ての際の参考にしてください。

包装フィルム、シールなどの誤飲

0歳～3歳くらい

【注意ポイント】

- 菓子やペットボトルの包装フィルムを口に入れたり、かじったりしていると破片を誤飲・誤えんして、窒息することがあります。また、年上の子どもの遊んでいるシール、パッケージについているシール等も同様です。
- 包装フィルムやシールがついている物、容器などで遊ばせないようにしましょう。



医薬品、洗剤、化粧品などの誤飲

0歳～3歳くらい

【注意ポイント】

- 医薬品や洗剤などの誤飲は、重大な症状を引き起こすおそれがあります。
- 医薬品、食品と見た目が似ている洗剤や化粧品、入浴剤などは、子どもの目に触れない場所や、手の届かない場所に保管しましょう。



ボタン電池、吸水ボール、磁石などの誤飲

0歳～5歳くらい

【注意ポイント】

- ボタン電池の誤飲は、食道に詰まったり胃の中にとどまったりすると重症事故につながります。ボタン電池を利用している器具は、電池が取り出せないようカバーを固定しましょう。
- 樹脂製の吸水ボールの誤飲により、腸閉塞などを起こすことがあります。
- 複数の磁石の誤飲は、磁石が腸壁を挟んでくっつき消化管穿孔(消化管に穴があくこと)や腸閉塞などを起こすおそれがあります。

これらの物は子どもの手の届かない、見えないところに保管しましょう。



たばこ、お酒などの誤飲

0歳～3歳くらい

【注意ポイント】

- たばこやお酒の誤飲は、ひどい中毒症状が出るおそれがあります。
- たばこやお酒は、子どもの目に触れない場所や、手の届かない場所に保管しましょう。



食事中に食べ物で窒息

0歳～6歳くらい

【注意ポイント】

- パン、カステラ、こんにやく、キノコ類、海藻類、ゆで卵、肉などは、1cm程度まで小さくして与えましょう。
- 球形の食品(プチトマト、ブドウなどの果物、飴、チーズ、うずらの卵など)は、吸い込みにより窒息の原因となります。4等分にして、ブドウなどの皮は除去してから与えましょう。
- いか、エビ、貝など噛みきりにくい食材は0、1歳児には与えないようにしましょう。気管・気管支に入りやすい豆・ナッツ類は、5歳以下の子どものには食べさせないようにしましょう。
- 食品を口に入れたまま遊んだり、話したり、寝転んだりさせないようにしましょう。また、泣いている子どもをあやそうとして、食品を食べさせるのはやめましょう。



おもちゃなど小さな物で窒息

0歳～6歳くらい

【注意ポイント】

- 年上の子どものおもちゃには、小さな部品が含まれていることがあります。対象年齢になるまでは、子どもの手の届かない所に保管し、遊ばせないようにしましょう。
- おもちゃの購入時や利用時は、商品の対象年齢を必ず守りましょう。



水まわりの事故

入浴時に溺れる

0歳～5歳くらい

【注意ポイント】

1. 大人が洗髪する際には、子どもを浴槽から出しましょう。
2. 浮き輪の使用中でも溺れる事故が発生しています。保護者が目を離す状況で使用するのはやめましょう。
3. お風呂から上がる際には、子どもを先に浴槽・浴室から出しましょう。



浴槽へ転落し溺れる

0歳～2歳くらい

【注意ポイント】

1. 子どもが浴室に入ってしまう、浴槽をのぞき込み転落し、溺れることがあります。
2. 入浴後は、浴槽の水を抜き、浴室には外鍵を付けて子どもが入れないようにしましょう。



洗濯機、バケツや洗面器などによる事故

0歳～5歳くらい

【注意ポイント】

1. 使用後の洗濯機、バケツ、洗面器に水を溜めたままにしないようにしましょう。
2. 洗濯機にはチャイルドロックをかけて蓋を開けられないようにしましょう。



ビニールプールやプールでの事故

1歳以上

【注意ポイント】

1. 水深の浅い場所でも、子どもが溺れてしまうことがあります。
2. プールで遊ぶ時は、必ず大人が付き添い、子どもから目を離さないようにしましょう。



海や川での事故

2歳以上

【注意ポイント】

1. 子どもだけで海や川などで遊ぶことがないよう注意しましょう。
2. 遊ぶ時はライフジャケットを着用させ、必ず大人が付き添うようにしましょう。



ため池、用水路、排水溝、浄化槽での事故

2歳以上

【注意ポイント】

1. ため池、用水路、排水溝、浄化槽など、転落や溺れの可能性がある危険な場所に気付いたら、管理者へ柵の設置等を要請しましょう。
2. 危険な場所で遊ばないように頃から話しておきましょう。



やけど事故

お茶、みそ汁、カップ麺などでのやけど

0歳～2歳くらい

[注意ポイント]

1. 子どもの手が届かないように、高温の飲み物や汁物をテーブルに置くときは中央に置き、また子どもを抱っこしたまま扱わないようにしましょう。
2. テーブルクロスやランチョンマットは、子どもが引っ張って、その上の載った容器を倒す原因になりやすいので使わないようにしましょう。



電気ケトル、ポット、炊飯器でのやけど

0歳～2歳くらい

[注意ポイント]

1. 電気ケトルなどにつかまり立ちをしたり、コードを引っ張ったりして倒してしまい、熱湯を浴びてやけどをすることがあります。
2. 電気ケトルやポットは倒れても中身がこぼれない製品を選びましょう。コードも含め子どもの手の届かない場所に設置しましょう。
3. 炊飯器から出る蒸気に触れてやけどをすることがあるので、キッチンのレイアウトを見直し、子どもの手の届かない位置に設置しましょう。

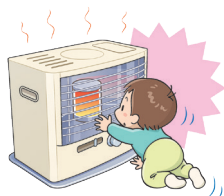


暖房器具や加湿器でのやけど

0歳～2歳くらい

[注意ポイント]

1. 床に置くタイプの暖房器具は、子どもの手が届かないよう安全柵などで囲みましょう。
2. 湯たんぽや電気カーペットなどは、長時間皮膚が同じ場所に触れて低温やけどをすることがあるので、長時間使用しないようにしましょう。
3. 加湿器から出る蒸気に触れたり、加湿器を倒して熱湯を浴びたりしてやけどをすることがあります。加湿器は転倒しても熱湯がこぼれない製品を選び、使用時は、ベビーゲートを活用しましょう。



調理器具やアイロンでのやけど

0歳～2歳くらい

[注意ポイント]

1. フライパンやなべなどの調理器具は、調理中だけでなく調理後も高温のことがあるので、子どもに触れさせないようにし、取っ手は奥に向けましょう。キッチンにゲートを設置して子どもがキッチンに入れないようにしましょう。
2. アイロンやヘアアイロンを使用する際は子どもを近づけないようにし、使用後はコードを含めて、子どもの手の届かないところに置き、なるべく早く片付けましょう。



ライターや花火でのやけど

2歳～6歳くらい

[注意ポイント]

1. 花火をする際は、燃えやすいものがなく、広くて安全な場所で行い、子どもだけで遊ばせないようにしましょう。説明書をよく読み、注意事項を必ず守りましょう。
2. 使い捨てライターによる火災事故防止のため、子どもが操作できないような幼児対策（チャイルドレジスタンス）機能が施された、PSCマーク（※11ページのトピックス参照）付きのライターを使用し、子どもの手の届かないところに保管しましょう。



転落・転倒事故

大人用ベッドやソファからの転落 0歳～1歳くらい

[注意ポイント]

1. 子どもは寝ている間も寝返りをしたり、動きまわったりして、ベッドから転落し、頭部などにけがをすることがあります。柔らかすぎるクッションなどは窒息のおそれがあるため、転落防止のためであっても周りに置かないようにしましょう。
2. 寝かしつけの時に、添い寝をすることは多いと思いますが、2歳になるまでは、できるだけ大人用ベッドは使わないようにしましょう。またソファで寝かせないようにしましょう。



ベビーベッドやおむつ替えの時の台からの転落 0歳～1歳くらい

[注意ポイント]

1. ベビーベッドを使用する時は、常に柵を上げて使用しましょう。
2. ベビーベッドやソファ、施設にあるおむつ交換台などの高さのある場所でおむつ替えをする時は、事前に準備し、片付けやゴミ捨ては子どもを降ろした後にしましょう。備え付けのベルトを使用しても確実な転落防止にはなりません。



椅子やテーブルからの転落 0歳～1歳くらい

[注意ポイント]

1. 椅子や子ども用ハイチェアの上で立ち上がったたり、座ってテーブルを蹴ったりさせないようにしましょう。
2. ハイチェアの安全ベルトは、必ず締めましょう。
3. 椅子で遊ばせないようにしましょう。



階段から転落、段差での転倒 0歳～1歳くらい

[注意ポイント]

1. ハイハイをする頃から、階段からの転落が起きるので、転落防止の柵を付けて、閉め忘れのないようにし、子どもが開けられないようにロックを掛けましょう。
2. 玄関の段差での転倒や、そのほかにつまづきやすい段差がないか注意しましょう。



ベランダなどからの転落 1歳以上

[注意ポイント]

1. ベランダを子どもの遊び場にしないようにし、子どもだけでベランダに出ないように注意しましょう。
2. ベランダから身を乗り出すと転落する危険があることを教えましょう。
3. ベランダに植木鉢、椅子などの踏み台になるものを置かないようにしましょう。エアコンの室外機は手すりから60cm以上離して設置するか、上からつるしましょう。
4. 子どもだけを家に残して外出することは避けましょう。



窓や出窓からの転落 1歳以上

[注意ポイント]

1. 窓に補助錠やストッパーをつけて、大きく開かないようにしましょう。
2. 窓の近くにベッドやソファなど踏み台になるものは置かないようにしましょう。
3. 網戸に寄りかかると破れて転落するおそれがあるので、窓を開ける幅を制限できない場合は、網戸に寄りかかれないよう柵を設置しましょう。

